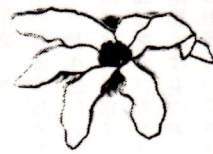
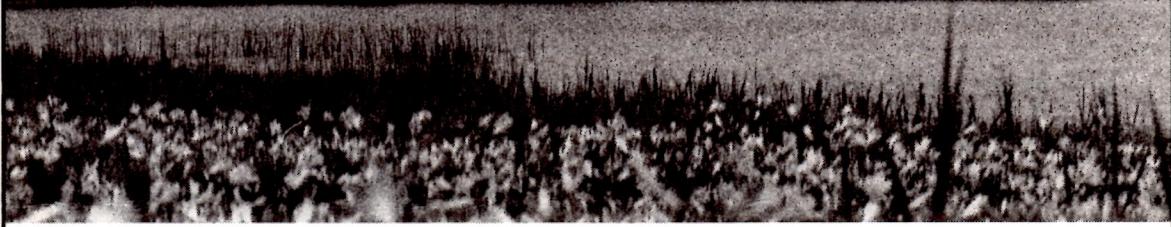


# 尾瀬の自然



(題字 初代環境庁長官 大石武一氏)



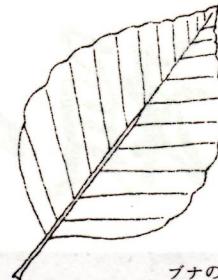
## ■特集 会員の声



群馬県自然保護センター（山の鼻地区）

尾瀬の自然を守る会

## 五〇年入山禁止を



ブナの葉

清野 英一（宮城県）

私、昭和10年生れで54才になります。

中学時代から山が好きで、高校は地元の高校の山岳部に入り以来社会人になってから

は団体には属さず、ときどきはあっても主に東北・日光周辺（含尾瀬）奥秩父の山を中心に山行を続けて参りました。

現在第二の人生として中小企業の雑貨卸商の常務をしており、月1回位の山行を楽しみに連休には秋父・尾瀬・日光周辺を歩いております。特御池から入っております。特に春5月の沼尻からガスが

晴れて行く燧の朝景色が素晴らしい、私の山行中でトップクラスの景観であろうと思つております。

さて、尾瀬の自然保護についてボランティアでやっている姿には敬服いたしますが、私の尾瀬の保護に関する考え方をお伝えしたいと存じます。

確かに日本の自然保護の先導的役割を果したのは尾瀬の平野長蔵氏に代表される人々でした。その故に今でも尾瀬は自然保護の聖域であり続け、

しかし私は思うのです。長蔵氏が求めた尾瀬を守れの対象は、日露戦争を契機とした国策による電源開発に対して水没の危機から尾瀬を守れといふものであります。それはそれで立派な足跡であり、戦後もまた尾瀬の水力発電問題から守るため果した役割は評価出来るものと思います。

しかし時代と共にこのテーマは風化し、過去のものとなつてしまつたのではないでしょうか。水力発電は今主力を原発に置きかえられ別の運動を惹起している事で、今後電発問題で尾瀬が引合いになる事はないと考えます。しかし何故今尾瀬の保護が引続いて呼ばれているのでしょうか。保護運動の対象が全く変わったの

だと思います。尾瀬を今何か

守らねばならないのでしょうか。

「人間」から尾瀬を守らねばならないと存じます。

年間百万人の人が訪れ、生活排水による汚染が猛烈に進行している事から発生する諸問題をどうするかという事だと存じます。私も尾瀬は美しいと思い、四季を通じて行きたいです。しかし尾瀬が絶対守られるべき国家的資産と考えた時、策は単純であり明確であると思います。

何故かくも尾瀬に人が行くのか、それは昔は尾瀬を守つた人々の子孫が尾瀬汚染の張り紙があるからです。尾瀬ヶ原を歩きながら亡びの美学ということをふと感ずる事があります。尾瀬は美しい。しかしそれはやがて滅びる運命にあるからこそ、滅びの美しさを持っているのだろうか。

藏王の南東部、その地名

マは風化し、過去のものとなつてしまつたのではないでしょうか。水力発電は今主力を原発に置きかえられ別の運動を惹起している事で、今後電発問題で尾瀬が引合いになる事はないと考えます。しかし何故今尾瀬の保護が引続いて呼ばれているのでしょうか。保護運動の対象が全く変わったの

だと思います。尾瀬を今何か守らねばならないのでしょうか。『人間』から尾瀬を守らねばならないと存じます。

年間百万人の人が訪れ、生活排水による汚染が猛烈に進行している事から発生する諸問題をどうするかという事だと存じます。私も尾瀬は美しいと思い、四季を通じて行きたいです。しかし尾瀬が絶対守られるべき国家的資産と考えた時、策は単純であり明確であると思います。

何故かくも尾瀬に人が行くのか、それは昔は尾瀬を守つた人々の子孫が尾瀬汚染の張り紙があるからです。尾瀬ヶ原を歩きながら亡びの美学ということをふと感ずる事があります。尾瀬は美しい。しかしそれはやがて滅びる運命にあるからこそ、滅びの美しさを持っているのだろうか。

藏王の南東部、その地名

愛する心があればさっさと小屋を閉じて下山すれば良いと存じます。それを生活の利権を盾として、人々を呼び集め指弾する人もいない中で金もうけに落ちぶれてしまつて、先祖の顔に泥をぬつているのだろうと思いません。

尾瀬で冷たい缶ビール、ジース、コーラ、はてはうどんまで売つてゐる。こんな必要はどこにありますか。私は日本で最も行きたい、何度も行きたい処は尾瀬であります。

夏の一夕、こまゆみの里に宿をとり武尊山縦走の疲れをとり、ぶらりと散策に出たのでした。と一台のマイクロバスが降りて来てバリケードの一方の鍵を開け、スートと車で行つてしまつたのであります。私は唖然としてその車を見送つたのであります。

それは奥鬼怒温泉の湯の中の宿の一軒の名が記してあります。林道反対を唱つて自分の利権はチャッカリ守る実にいやらしい一面でした。

ある自然保護団体が「ブナを守れ」と伐採現場を視察する集いを行なつた。その折、その町役場に老人もいるのと、その現場まで道を作れと要求したという笑うに笑えない話で宮城県で実際に起つた話で

す。

田部重治の山と渓谷の中の笛吹川を漱るに魅せられ、近年彼が登った時期その通りの路をトレースして見ました。

幽林と彼が書いた十文字峰までは実に名文田部の印象のとおりありました。しかし音楽的階調に満ちた南佐久の戦場ヶ原の面影は全くなく毛木戸から梓山までは一面の高原野菜の大農場でありました。

昭和63年の10月10日、日本で有数の聖山である御嶽山を中沢口から飛驒口へ縦走しました。八合目金剛堂で植生は突然変り樹木は低灌木のみとなり、ナナカマドの紅葉と芝紅葉に色どられた山肌が晴天一望できました。しかし何か臭うのです。シーズンオフで会う人もない静寂の山ですが、ここから九合目半の覚明堂までの間臭い放しの悪臭は盛山期の排泄の臭いです。

るる書き連ねて参りましたが、私の意とするところはご理解いただけたと存じます。何卒今後の運動の方向の中で拙い私見ですが資として頂ければとペンをとりました。長々と大変失礼申し上げました。



中村芳男

大正元年新潟県生まれ。北国特有の暗いみぞれまじりの朝だった。県立能生水産学校漁撈科卒業。戦後、孤児や刑余者、その他の戦争犠牲者らと共に生活している。丹沢に住んだことから野生の鹿はじめ日本の大型動物との精神的な接触が深まり、こうじて自然保护運動となる。丹沢自然保护協会、全国自然保护連合等を組織し会長・理事長等を歴任。現在自然環境保全審議会・中央森林審議会委員。

—「丹沢・山暮し」(どうぶつ社)表紙から —

## 中村芳男さんの思い出

高橋喬(千葉県)

「ぜひ取材させてほしい」と申し入れた。

カメラマンと一緒に、本厚木からバスに乗り、宮ヶ瀬大橋でしばらく待ってから、札掛行きのマイクロバスに乗り続いだ。当時、一日二往復のマイクロバスが、中村さんたちの強い要請で運行されていた。いかにも典型的な赤字路線らしく、乗客はわれわれ二人だけ。運転手と車掌が、所在なげにおしゃべりに夢中だった。曲りくねった林道を進むうち、一頭の牡ジカに出逢った。早

三十年ほど前になるだろうか。小田急の広報課で、中村さんのことを小耳にはさんだ。

くも野生のシカに出逢えたことに、少年のように胸を躍らせたのは、ついきのうのようない気がするほど、それは鮮烈な経験であった。

終点の分校(現在はない)の前で、中村さんが待っていた。中村さんが経営する「丹沢ホーム」は、客室用の建物が一棟だけ上の方にあります、あとは住まいと食堂を兼ねた古びた平屋だけという配置だった。その後、かなり拡張されて建物も立派になったが、あの頃のほうが丹沢ホームらしかったようと思う。

夕食後、中村さんが部屋まで来てくれた。翌朝は午前四時に起きてシカを見に行く約束なのに、二時ごろまで話をしてくれた。戦前の所沢での牧師時代のこと。戦後、霞ヶ浦に入植したものの農業では食えず、製塩で生計を立てたこと。その後、丹沢に落ち着き、山仕事をしながら戦災孤児を育てたことなど。お話を伺っている間、トラッグミが腕時計でものぞき込んでいるかのように、規則正しい間隔で鳴いていたのが印象的だった。

後日、中村さんは「小田急なんかの紹介で来るやつなん

て」と、最初は内心、反発していたと打ち明けてくれたが、それには理由があった。ある著名な動物写真家は、まだ売れてはイノシシやシカ、カモシカなどを撮っていた。当時は謙虚で腰が低かったのに、某新聞社から写真集を出して売れっ子になると、途端に態度が大きくなってしまった。中村さんは、そういう人間や企業が大嫌いだった。

それからは、よく中村さんのところに行つた。大山からヤブをこいで諸戸林道まで直降し、夜遅く丹沢ホームに着いて、中村さんを心配させたこともあった。シカによる植林木の食害を防ぐため、山の斜面に牧草の種子をまくことを提案し、種子をあせんしたこともあった。

丹沢で自然保护に力を入れていた中村さんが、尾瀬へ目を向けさせてくれた。尾瀬をルボして自然保护問題を書いたのは、それから間もなくのことであった。いまごろ中村さんは、空の上から、こよなく愛した丹沢の山や谷を見下ろしていることだろう。心からご冥福をお祈りします。

■尾瀬ヶ原観察会（6月17日～18日）

ブナの生命の音を聞く



ミネザクラ

関口 昭雄（群馬県）

心の空白を埋めてくれる内容  
が、そこにはないことが解つて  
きたからです。

オーストラリア旅行に変え  
て選んだのが、六月一日三日

の「木曽路の旅」群馬文化団  
体連絡協議会の主催する旅と、  
ケ原観察会でした。

六月十七、十八日のこの尾瀬  
の記事を読んだ私は、十数年  
ぶりにかつてつづり方教師で  
あり、子どもへの情熱に燃え  
ていた波戸場さんに、それは

唐突に電話をしてしまったの  
です。けれど波戸場さんの声  
はやさしかつたのです。「大丈  
夫関口さんでも行けるよ」そ

のやさしさに励まされた私は  
この運動は、人間の愛を育て  
る大きな運動であると思え  
たのです。

解散式の、人々の囲みの中  
に立っている守る会の人たち  
の顔、それは私の心のカメラ

に焼付けられました。この運  
動がいかに苦渋に充ちた運動  
であるか、それに耐え鍛えら  
れた日焼した顔、その顔に暖

かく澄んだ目なざしが、かが  
やっていたからです。私は無

知であったが為に遙くなつて申  
証ないという想いにかられながら、  
尾瀬の自然を守る会の入会手続  
きを今日済ませてきたのでした。

「尾瀬」結婚前（四十年前）  
の道を朝に歩きぬ尾瀬に焦  
りました。

「尾瀬」結婚前（四十年前）  
妻と共に歩んだ道、それは美

い妻、その妻が「人は生きら  
れるだけ生きるんだ」と口ぐせ  
のようになっていました。命  
のある限りその命を輝かせて  
生きるんだ、ということを最  
期の時まで証してた妻……  
その死の悲しみをいやでも越  
えなければならなかつた私は、  
亡き妻の遺稿集「手鏡に見る」  
を自費出版しました。三年忌  
も終りました。

「吾は吾が孤独に帰りゆくの  
みと煙れる妻の墓前にある」  
やつと人生の時を越えた私  
にオーストラリア旅行の機会  
が与えられました。いそいそ  
とビザ申請の書類を揃えて説  
明会にのぞみました。五月二  
十四日から三十日までの旅で  
した。説明会を聞きながら、  
嫌気がさしてきました。私の

しい尾瀬であると共に私は  
魂のふるさとも思える尾瀬  
であったからです。二十数年  
には歩ききる自信は全くあり  
ませんでした。

鳩待峰に来た私は二班の講  
師古見満雄さんの班に加えて  
もらいました。  
道々「ほら聞いてごらん」と  
教えてくれるヒガラ・コマ  
ドリ・エゾハルゼミの声……  
それらがブナやミズナラのむ  
せかえる緑の中から聞える尾  
瀬ヶ原への道は、大自然の交  
響曲そのものであります。

植物の講師林ふさ子さんは  
可憐なマイズル草、ヅダヤク  
シユの花々をはじめ私がたず  
ねることにまるで楽しみ、い  
とほしむかのように笑顔で教  
えてくれました。なんといつ  
ても感動的だったのは、古見  
さんがお医者さんの使う聴診  
器を取り出しブナの大木の根  
元にあてて、聞いてごらんと  
言って聞かせてくれたブナの  
大木が地面から水を吸い上げ  
る音でした。ズズズーという  
音でした。クックッ、ゴゴッ、ゴゴッと

尾瀬の自然を守る会の人々  
のやさしさに励まされ、教え  
られ、白い花々とむせかえる  
緑の尾瀬から帰ることが出来  
た私は、尾瀬の自然を守る  
この運動は、人間の愛を育て  
る大きな運動であると思え  
たのです。

それと同時に、なんと心な  
い人が多いことかとため息が  
でた。ゴミもさることながら、  
木道のわきの湿地帯にいくつ  
も踏み跡が見られた。どうし  
てもっと尾瀬のこと、自然の  
ことを知ろうとしないのだろう  
うと腹立たしくさえあつたけ  
れど、私もその中の一人かも  
れないと思うと心が痛んだ。  
一人でも多くふとどき者をな  
くすには、自然について知ろ  
う、尾瀬のことをもつと知ろ

聞えてくる水を吸い上げる音  
はまさに生命の音であり、新  
鮮でみずみずしい音でした。

この音を聞いただけで、私  
も生きてると思いましたし、  
もう帰っても惜しくないと思  
いました。けれど尾瀬の木や  
草や花々は、更にやさしく、  
美しく私を導いてくれました。  
懇切丁寧に植物を教えてくれ  
る隣町の高井さんと風呂で語  
り合えたこと。

湿原は  
伊藤慈子（群馬県）

今までに何度も尾瀬には入  
ったことがあります、「ああ、  
○○の花が○○か」という表  
面的な見方だけで終わってし  
まっていたのが、指導員の方  
々の丁寧な説明で、ずいぶん  
と花や生きものを身近かな存  
在に感じることができました。

それまで気づかなかつた自  
然の呼吸を聞いたような気持  
ちになりました。自然が生き  
ているということ、尾瀬の湿  
原は呼吸をしているということ  
を肌で感じることができま  
した。

それと同時に、なんと心な  
い人が多いことかとため息が  
でた。ゴミもさることながら、  
木道のわきの湿地帯にいくつ  
も踏み跡が見られた。どうし  
てもっと尾瀬のこと、自然の  
ことを知ろうとしないのだろう  
うと腹立たしくさえあつたけ  
れど、私もその中の一人かも  
れないと思うと心が痛んだ。  
一人でも多くふとどき者をな  
くすには、自然について知ろ  
う、尾瀬のことをもつと知ろ

1991年1月1日

うとする人が一人でも増えることだと思います。

いろいろな意味で収穫の多い一日でした。人に恵まれ、自然に恵まれ、大変楽しい一日でした。

### つくれない自然

井上はな子（群馬県）

夢にまで見た尾瀬、尾瀬ヶ原観察会に初めて参加させて頂き、又一つ大きな思い出が出来ました。前夜の先生方の鮮やかな説明を聞きながら、次の日を楽しみになかなか寝つかれなかつた私でした。

どこまでも澄みきった晴天に恵まれ、崩れる様な青葉の下を、小鳥のさえずりを聞きながら、先生方の一つ一つの説明も生命にしみ込みました。今から何千年も前から続いている、原始的な山々、森、川の流れ、その全てを思いっきり味わい、山を愛する素晴らしい仲間も友となりました。

群衆をなす魚達、精一杯生命を楽しむトンボ、舞う蝶、ミズバシヨウ、タテヤマリンドウ、自然の宝庫の尾瀬ヶ原も九月には雪が降り、又長い冬

に閉ざされるという。この恵まれた自然是、私達人間が作ろうと思しても作れるものでないが、破壊は人間の手によつてなされる。私の大好きな小さな花々が心のスクリーンに山を下りた今も美しく写し出されます。山を愛している人達で、自然を愛している人達で、森や水をいつまでも大切に守つて行きたいと思います。これからも此の様なすばらしい会にぜひ参加させて頂きたいと思います。

人達で、森や水をいつまでも大切に守つて行きたいと思います。これからも此の様なすばらしい会にぜひ参加させて頂いたいと思います。

### 入山前に予備知識を

田村百合香（群馬県）

尾瀬の成り立ち、火山活動等からの事前学習も、一回では理解できなくとも、何度も読んで頭に入れておきたい事柄の一つですね。

最近は、中高年の方々の山歩きが盛んであるということ

入山者の中には、相変わらずゴミを散らかしたり、木道以外のところに足を踏み入れたりする人もいるようです。事前にビデオ等で予備知識を入れて入山するとか、団体で入る時は指導員が同行するとか、やはり何か規制することも必要になるのでしょうか。平地でもマナーの悪い人が増えている現代ですから……。

①台本を用意する。  
添乗区间は決まっているのだから、解説のポイントも同じ。台本作成時とのすればでてきたならばそこで各自がバリエーションを付ける。今回の練習のように個性を出す必要は全くないと思う。かえって、誤った解説の可能性が高くなるだけだと思う。

②全会員に対して呼びかけを行ふ。

八百余名の会員の中には、

唯一楽しかったことは、馬場先生の解説のもとに、ヒメ田代の咲き競つてゐる美しい花々を観察できたことでした。

こんなふうに感じたのは、

清野、星、斎藤、八巻の4人だけだったのでしょうか。

うと、ちやつかりバスに乗つている……。これからは、いろんな山に行くわよー!! と張りきっている御婦人……。

なかなか元気がよいです。尾瀬の乾燥化が進んでいるというお話を伺いましたが、実際にその場所に行き、かなり深刻な問題なのだな……と痛感しました。ヤマドリゼンマイもそうですが、尾瀬の湿原にレンゲソツジがあるのに驚きました。何となく妙な気分でした。



シラカンバ

### 適材適所で

八巻治子（福島県）

必要な条件を兼ね備えていらっしゃる方が何人かでもおられるはず。“適材適所”を次回から実行してみてはいかがでしょうか。

二日間の講習を通して感じたのは期待外れであったといふことのみ。今回の講習は、一ヶ月後のバス添乗指導にあたつてのもののはず。ルーペやピンセットを使って勉強する場面もありました。不要とは言いませんが、今、この時にすべきかどうかを考え欲しかつたと思います。

それ以上に、尾瀬へ来る人たちに対する呼びかけ、問い合わせは勿論のこと、具体的提案を主体とする議論を行う時間があつて然るべきだつたと思ひます。

唯一楽しかったことは、馬場先生の解説のもとに、ヒメ田代の咲き競つてゐる美しい花々を観察できたことでした。

「ビデオ  
「尾瀬の自然」  
監修／尾瀬の自然を守る会  
制作・著作／日本テレビ  
(三〇分トラック)  
価格 六、八〇〇円  
申し込み先 会事務局へ

## ■全国修学旅行研究協会(7月27日~31日)



ナナカマド

あまりに便利すぎる

高橋義昌(岩手県)

最初の晩のビデオでの学習会は、尾瀬のかかえる問題点がつかめて非常によかったです。指導員の解説が親切で、その上繰り返し説明されるので、頭のにぶくなつた私もかなり草花の名が覚えられました。帰りの車中で『尾瀬・山小屋三代記』(岩波新書)を読んだのですが、結局は人が多過ぎるからだろうと思ひます。あまりにも便利すぎるように思います。本当に歩きたい人だけが入れるようになります。

宿泊は全面禁止に

村田哲哉(山口県)

私たちの気のつかない路傍の小さな草花にも丁寧なご指導大変ありがとうございます。

## 入山前の講座を

安見雅子(大阪府)

大阪教職員互助組合の催しで参加いたしました。尾瀬の

自然の成り立ちや特徴、一つひとつ草花、鳥などを教えていただき、自然をまるごと大切にする意味がわかりとてもよかったです。

そこでの感想ですが、尾瀬に入山する前に、入山者全員が自然保護や自然の解説の講義を受けることや、単なる観光目的とした団体や業者などは縮め出すなどの思い切った措置が必要だと思います。観光道路建設反対は当然のこと

入山者が多過ぎる

秋丸浩毅(山口県)

平日に入山し、もつとじつくりと観察できたらと思います。

花の種類、数の豊富さにはびっくりしました。沢、湿原、森といろんな環境があり、私は最高でした。

## 守るべきは貧栄養

河本和子(奈良県)

思ひます。あまりにも便利すぎるように思います。本当に歩きたい人だけが入れるようになります。

しかし、この自然を守れるかどうかは否定的な気がします。入山者の数が多すぎ、観光に頼って生活する人とうまく折り合いをつけ、入山者数を制限することが必要だと思います。

宿泊は全面禁止に

一 案内、説明について

植物の名前などの説明にとどまらず、名前の説明の中に尾瀬全体が見えて印象的でした。名前は由来に触れ、見分け方は似たものとの区別など

## 三 提案

## (一) 「尾瀬特別天然記念物」

などの立札のそばに、守るために注意したいこと(理由と行為)を箇条書にした立札を立てる。

(二) 駅、駐車場、道の入口などに、一人ひとりが注意すれば守れるという内容のパンフレットを置く。

(三) ガイドブックの出版社に協力してもらう。即ち、守るためにアピールを入れる。

## マスター・プランを読む

井部和夫(新潟県)

できたのにと思います。一列で説明を聞くので後の方ではわかりにくい時があります。何か棒で指してもらえばよかったです。

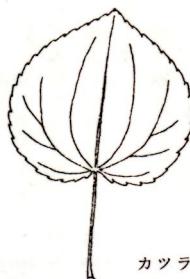
守る会の方が同行されたツアーパートナーに参加していなければ、ただ憧れの尾瀬に乗り込んで、思いま自然を破壊してい

守る会の方が同行されたツアーパートナーに参加していなければ、ただ憧れの尾瀬に乗り込んで、思いま自然を破壊してい

ただらうと思います。貧栄養故に尾瀬にあのかわいい草花があること、守るべきは貧栄養であり、踏みめることで泥炭層がこわされることなどは、どうして尾瀬ができたかは書いてあるガイドブックにも書かれていませんでした。

尾瀬は、かけがえのない原始の自然であると繰返し御指導いただきましたが、このことは現地において具体的に尾瀬にしかない動植物や地質を観察することによって初めて理解が可能です。そういう意味で、この方面についての一定程度の御指導とPRをお願いします。「マスター・プラン」を読ませていただきましたが、入山規制にあたってはそれが特定の人の利用にならないよう十分御配慮を願いたいと思います。老人も子供も尾瀬の自然を共有できるように。

## エスカレートする環境庁



### 一 破壊庁の性格むき出しに

91年度の政府予算要求の中、環境庁は「尾瀬保護」の美名を掲げて、大規模な自然破壊予算を積み上げていることが12月わかった。それによると「尾瀬環境保全対策緊急整備」を目的に四億五、二〇〇万円が計上されている。

予算要求の背景説明として「尾瀬が現在かかえている緊急の問題とその解決策は、(1)水施設の整備、(2)湿原、高山植物生育地の荒廃——木道整備と植生復元」の二つであると決めつけ、平成3年度から3ヵ年計画で、次のような工事を持ち込もうとしている。

放流施設(三と四年度、見晴と山ノ鼻二カ所)、公衆トイレ(三と五年度、五

炊事棟(三年度、見晴地区)、ビジターセンター(三年度、山ノ鼻地区)、セントラルロッジ(五年度、見晴地区)

質の高い木道整備(三と五年度)

至仏登山道再整備(三と五年度)

度の高い木道整備(三と五年度)

度の高い木道整備(三と五年度)

度の高い木道整備(三と五年度)

(1) 湿原、湖沼の富栄養化について、その主たる原因が

山小屋や公衆トイレから排出される尿や雑排水にあると

ころから、山小屋に合併浄化槽の整備を指導していく一方、

公衆トイレ(合併処理浄化槽を併設する)、放流施設を緊急に整備する。

具体的には、整備の遅れて

いる公衆トイレ五カ所について、平成3年度から3ヵ年計画によりすべて合併処理浄化槽を含めた再整備を行う。ま

た、公衆トイレの処理水を湿原に影響のない大河川まで導くための放流施設を、見晴、

山ノ鼻の2地区について新た

に整備する。

なお、山ノ鼻地区、見晴地区においては、利用者への環境保護教育のための施設であるビジターセンター、セントラルロッジ(ミニビジターセンター)を再整備する。

区においては、利用者への環境保護教育のための施設であるビジターセンター、セントラルロッジ(ミニビジターセンター)を再整備する。

荒廃については、湿原に影響を与えないために必要不可欠な木道の再整備を行うこととし、具体的には、耐用年数をすでに経過している部分を中心

に質の高い整備を行う。

また、登山者の踏み荒しに

よって高山植物生育地が広範囲にわたって裸地化し、現在やむを得ず閉鎖している至仏

山登山道を、周辺の植生が復元し易いような形で再整備す

る。

（解説）

昨年、見晴十字路に作り始めた公衆トイレは、まだ完成を見ていなかった。今年は、炊事棟を含めて完成させ、放流施設(ペイブライン)の建設に取り組む方針のようである。

さらに今年は、あきらかに山ノ鼻にビジターセンターを新築する意思を明らかにしてい

る。すでに多過ぎる施設群を

特別保護地区内に設けている

のに、なお一層それらを充実強化する方向である。

尾瀬沼畔に巨大なビジターセンターやトイレを作り、湿原の各所に観察テラスを作つたあの発想に変化はない。教育差別を勝ち抜いて中央官庁に入つたエリートたちの発想は、こんなに貧しい。何も見

ないで大人になつた彼らに、一体自然と人間の何がわかるのか。人工的なものを好きなだけ持ち込み、尾瀬を追い詰めていく。それを正しいと信じているところに貧しさがある。

また、登山者の踏み荒しに

よって高山植物生育地が広範

域にわたって裸地化し、現在

やむを得ず閉鎖している至仏

山登山道を、周辺の植生が復

元し易いような形で再整備す

る。

■第12回尾瀬自然保護指導員養成講座修了者の紹介

（福島県）菊田隆志、河野茂邦、松田広司、加藤正勝、森井出茂、高畠秀敏

（群馬県）石原佳春、田村百合香、五十嵐美絵、林ふさ子

（宮城県）野沢史夫、音羽裕荒木潤子、高橋治

（栃木県）荒川彰夫

（千葉県）石井良太郎

（神奈川県）鶴野稔、甲斐田則、大槻尚紀

（知子）（合計24名）

### ■ニュース／情報

当会が二年前から始めた夏の入山指導が、日本自然保护協会（沼田真会長）のプロ・ナトゥーラ・ファンド（ラテン語、自然のため基金）の対象となり、一九九一年一九

万円の助成がなされることが決まった。これを受けて新年一度一層入山指導に力を注ぐこ

とになり、指導員諸君の腕、いや口の見せどころが広がったと言える。

又、ダイエーファイナンスが来年実施する環境保護に貢献するクレジットカード「O MCエコロジーカード」二十種類の一つに、尾瀬が加えられ尾瀬ヶ原のデザインされたカードが発売される。

これはカード利用金額の0.5%が、緑の地球防衛基金（大石武一会長）を通じ当会にもたらされるもので、20年続けてきた当会の活動が公的な支援を受ける最初の年になりそうだ。

カードには、白保や熱帯雨林保護なども入るが、ぜひ尾瀬の自然を守るカードの人気が高まってくれることを望みたいものである。

## 尾瀬・'91新春のつどい

■午前の部 10時～12時

- 代表挨拶 内海広重
- 基調報告 晴玉芳郎
- 会計報告 松田美代子
- 役員人事（任期二年）
- 91年活動計画・その他

■特別講演  
(14時～15時)

「野生植物の危機と尾瀬」  
講師 東大教授 岩根邦男先生  
(植物分類学)

「尾瀬を守る懇話会のメンバー」  
小笠原ムニンノ  
ボタンの研究や  
尾瀬にも触れた  
著書「日本絶滅危惧植物」(海  
鳴社、定価千七  
百円)を、当日  
二割引で斡旋し  
ます。講演だけ  
の聽講も歓迎い  
たします。会員  
バス30分、農大一高前下車  
以外の方もどうぞ。

ところ 農大一高生物教室  
とき 2月3日(日)  
小田急線経堂駅下車15分  
渋谷駅から成城学園前駅行  
バス30分、農大一高前下車

ぜひ参加して下さい。

記



■会員レポート  
「キリマンジャロとサファリ  
レポーター 町田安正  
「屋久島・縄文杉」  
レボーター 平井敬治  
「奥鬼怒スバーリン道」  
レボート 農大一高生物部  
「御池駐車場マイカー動向」  
レボーター 早川秀則

## ■新入会員の紹介

〔群馬〕高柳正春 中山雅子  
石原佳春 五十嵐美絵  
〔福島〕富樫八郎 坂本英子  
鈴木清 松田広司 三浦忠  
森田悦雄 井手茂 高畠秀敏  
〔宮城〕清藤恭雄 荒川潤子  
野沢史夫 音羽裕 清野英一  
〔東京〕古川智之 大槻尚紀  
下田茂雄 保田楨造  
〔栃木〕荒川彰夫 君島由美子  
〔埼玉〕磯貝和男 阿部申子  
〔神奈川〕鶴野稔 甲斐田知子  
藤井次郎 藤井啓子  
〔新潟〕宇尾野林也  
〔青森〕柴田憲孝以上三一人

■カンパの報告

次の方々からカンパが寄せられました。ありがとうございました。(敬称略)

阿部 申子 清野 英一  
磯部 晴子 安藤 孔一  
熊井 克子 熊谷 瑞枝  
清藤 恭雄 仁井田孝春  
合計 一八五〇〇円

ふやしたいと思います。ぜひ周辺の友人、知人に声をかけ下さい。尾瀬を守ろうとは、たくさんの人の方が集まらなくてはなりません。会員一人が最低五人に声をかけて下さい。

■募集、募集、募集

会員の声は、続けて掲載したいので、どしどしお寄せください。表紙の写真(キャビネ版)も募集しています。撮影の場所、日時、意図などのメモを付けて送って下さい。次号から広告も載せたいと考えています。広告主になってくれる方を紹介して下さい。

会報発送のお手伝いができる会員から広告も載せたいと考えています。広告主になってくれる方を紹介して下さい。

人、ぜひ事務局に一報を!

(編集部)

尾瀬の自然 第55号

発行 尾瀬の自然を守る会

発行日 1991年1月1日

発行者 内海広重

編集者 青木安弘

事務局 東京都世田谷

区桜三一三十三一

東京農業大学第一高

等学校生物教室内

電話 03 (342) 4481 内 43

郵便番号 156

現在、会員数は約八五〇名ですが、一九九一年は何とか千名を越えるようになり、仲間を

ふやしたいと思います。ぜひ周辺の友人、知人に声をかけ下さい。尾瀬を守ろうとは、たくさんの人の方が集まらなくてはなりません。会員一人が最低五人に声をかけて下さい。

会員の声は、続けて掲載したいので、どしどしお寄せください。表紙の写真(キャビネ版)も募集しています。撮影の場所、日時、意図などのメモを付けて送って下さい。次号から広告も載せたいと考えています。広告主になってくれる方を紹介して下さい。

会報発送のお手伝いができる会員から広告も載せたいと考えています。広告主になってくれる方を紹介して下さい。

人、ぜひ事務局に一報を!

(編集部)

尾瀬の自然 第55号

発行 尾瀬の自然を守る会

発行日 1991年1月1日

発行者 内海広重

編集者 青木安弘

事務局 東京都世田谷

区桜三一三十三一

東京農業大学第一高

等学校生物教室内

電話 03 (342) 4481 内 43

現在、会員数は約八五〇名ですが、一九九一年は何とか千名を越えるようになり、仲間を

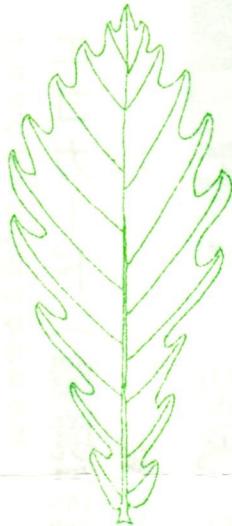
ふやしたいと思います。ぜひ周辺の友人、知人に声をかけ下さい。尾瀬を守ろうとは、たくさんの人の方が集まらなくてはなりません。会員一人が最低五人に声をかけて下さい。

会員の声は、続けて掲載したいので、どしどしお寄せください。表紙の写真(キャビネ版)も募集しています。撮影の場所、日時、意図などのメモを付けて送って下さい。次号から広告も載せたいと考えています。広告主になってくれる方を紹介して下さい。

会報発送のお手伝いができる会員から広告も載せたいと考えています。広告主になってくれる方を紹介して下さい。

人、ぜひ事務局に一報を!

(編集部)



ミズナ

## 法人化の検討

会は、20年を経ていろいろな変化を迫られています。助成金や寄付を受け易い団体になること

今年の総会(2/3)は重慶保護協会のP・N・フアンドから、今年29万円の助成金がすでに到着しています。これは今夏の入山指導活動に助成されたものであります。この助成金をどのように今夏の入山指導に生かしていくのか、検討しなければなりません。2/3(日)は、その意味で午前10時に合わせ、ぜひご出席ください。

## 会計の連絡先

会の会計は、松田幹事です。このことで、会費のこと、入会手続きなどについては、松田幹事に問い合わせ下さい。

今年の総会(2/3)は重慶保護協会のP・N・フアンドから、今年29万円の助成金がすでに到着しています。これは今夏の入山指導活動に助成されたものであります。この助成金をどのように今夏の入山指導に生かしていくのか、検討しなければなりません。2/3(日)は、その意味で午前10時に合わせ、ぜひご出席ください。

## 指導員の皆さんへ

今年の総会(2/3)は重慶保護協会のP・N・フアンドから、今年29万円の助成金がすでに到着しています。これは今夏の入山指導活動に助成されたものであります。この助成金をどのように今夏の入山指導に生かしていくのか、検討しなければなりません。2/3(日)は、その意味で午前10時に合わせ、ぜひご出席ください。

会計幹事  
松田 美代子

〒165 中野区野方1-49-4  
電話 03(3228)0473  
郵便振替 東京6-138023  
尾瀬の自然を守る会

## ※ 別記

### 記念者ムダ田兄のコメント

尾瀬の自然を守る会へ  
代表・内海広重、会員八五〇人)は、昭和四六年夏、尾瀬を縦貫する自動車道路に反対する目的をもって設立され、来年で二十年を迎えます。

官の英断もあって、尾瀬縦貫道路は食い止められました。なぜ、道路を止めねばならなかつたか。日光国立公園の中でも、尾瀬は特別保護地区に指定され、その豊かな植物相は他に類を見ないものです。これが一度破壊されたら永く、自然だらです。

会は独自で尾瀬自然保護指導員の養成に力を入れてきました。指導員の数はすでに一五〇人に達しています。しかし、尾瀬を訪れる多くの人々がその価値を

いつまでも農大一高にお世話になり続けるわけにもいきません。そこで、財團法人か社団法人に変身すれば、その団体に寄付すると税金控除の対象になる。しかし、尾瀬は三県にまたがるため法人認可官庁は環境庁だ。環境庁の役人の天下り場所になつてはつまらないし、財團にするには億を越す金を集めなければならぬし、社団では大した寄付には結びつかない。

そこで、デッドロックに乗り上げて腕組みというのが現状です。

活動はすべて自費でまかなうボランティア活動であり、年間五〇万人を越す入山者に対しても対応できるすべはなく、悪戦苦闘を重ねてきたというのが実情です。

このたび、関係者のご配慮により、会の活動に経済的な支援を受ける機会に恵まれることは初めてのことであり、ある意味で当会の活動が認められたこととも言えるわけが喜んでいます。

このことにより、当会は、一層入山者の啓蒙指導に力を入れ、将来は入山口である戸倉や檜枝岐に基地を設けて、ボランティアのレンジャーを常駐させることも考えています。



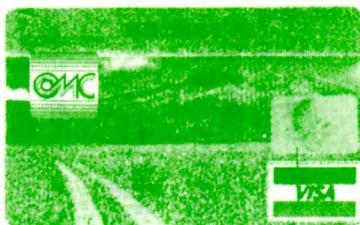
ヤマウルシ

会は、20年を経ていろいろな変化を迫られています。助成金や寄付を受け易い団体になること

会は、20年を経ていろいろな変化を迫られています。助成金や寄付を受け易い団体になること

首都圏にある最後の本物の自然を後世に残すべく、これからもたくさんの方の理解と支援をよろしくお願いいたします。

# エコカード（環境保護カード）詳報



●尾瀬の自然を守る。年間80万人のハイカーで賑わう尾瀬。その名高い自然にも危機が訪れている。自然保護指導員育成にも尽力。

本誌「ニュース／情報欄」でお知らせしたエコカードの発行は、元旦の各紙に全ページ広告が出た。ダイエーグループの信販会社ダイエーファイナス（本社・東京）と財団法人緑の地球防衛基金（会長・大石武一）が提携し、この一月から「〇M Cエコロジーカード（略称エコカード）」が発行されることになった。このことは、一方に飽くことのなき企業活動のうねりの中に、純粹な市

貧乏団体の当会として驚くべき話である。これを喜んで受けることとし、信販会社と基金の行う記者会見（12/12）に、別記のようなコメントを送った。（※（裏面））

本來、会員名簿の提供は、会員全員の承諾を得なければならず、会事務局の独断は許されない。しかし、全員に図る時

本誌「ニュース／情報欄」でお知らせしたエコカードの発行は、元旦の各紙に全ページ広告が出た。

尾瀬ヶ原のデザインされた当会のカードも含まれており、向こう三年間続くことになる。カードは、年七五〇円で売り出され、これを使っての買い物などの売り上げの〇、五%が、緑の地球防衛基金を通じ当会にもたらされる。基金事務局長柳田さんは、その説明に当会まで出かけた。（12/8）

## 記者覧

## カード発行

## 助成金○五%

民運動が取り込まれると、一方に地球環境問題を考えない企業は先行き危険といふ認識が広がっている今日の状況を示しており、当会は後者を考えた。

## 名簿提供

事実、信販会社からは「会員が増えれば増えるほど、利用額が高ければ高いほど、助成額も大きなものになります。是非、貴会の会員の皆様にもご協力いただければ」と考

えております」といつて、当会の会員名簿を要求してきた。（12/18）

ギブアンドテイクの企業精神が脈々と伝わつて、この一月から「〇

ド紹介のパンフレットが皆さんとのところに送られると思います。いまやカード全盛の世の中、注意深く慎重に対処しないと身を滅ぼすことにもなります。しかし、どうせ買わなければならぬ買い物の〇、五%が尾瀬保護に使われるというのは、いいアイデアだと思う。

会員各位におかれましては、ことの次第をご理解くださいされ、ご承知ください。よろしくお願いします。

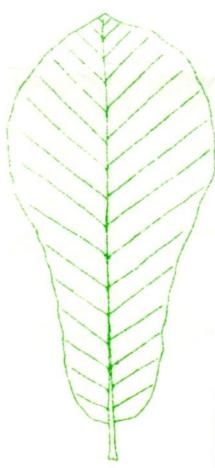
なお、名簿管理は厳重にする旨の誓約書の提出を信販会社は約束しています。

間的、経済的余裕はなく役員会で本号外を出して会員諸君の了承を得ることに決めた。（12/23）

## パンフレット

## 助成団体

1 地球温暖化（中京大	2 オゾン層の破壊（東	3 学戸塚研究室）
4 (5) 熱帯林の減少	5 熱帯森林保護団体	6 砂漠化（横浜国大環
7 (6) 野生動物の減少	8 国際さくら生態系協会	9 境科学研究センター）
10 (7) 野生動物の減少	11 A E F ジャパン	12 浜松まき（マツキ）協会
13 (8) 自然破壊	14 マホガニ	15 天神崎を大切にする会
16 (9) 小清水自然と語る会	17 知床国立公園（100）運動	18 八幡平ブナ林を守る会
17 (10) 瓢湖の白鳥を守る会	18 柿田川トラスト委員会	19 尾瀬の自然を守る会
18 (11) 白保公民館	19 天神崎を大切にする会	20 立山連峰自然を守る会
19 (12) 天草の自然を守る会	20 ヒマラヤ保全協会	21 ヒマラヤ保全協会



ホオノキ